

古河機械金属グループの事業とCSRの位置づけ

当社グループのCSRは、「経営理念」を実現するための実践そのものと考えています。1875年(明治8年)の銅鉱山事業の創業以来、未来に向けた持続的な意識改革により、絶えざる自己改革を実践するとともに、常に時代の要請に応えるべく、信頼され、魅力あるモノづくりを追求し、様々な事業を展開する中で、我が国産業界の発展に少なからず貢献してきました。今後も、社会から必要とされる企業であり続けるために、経営の透明化を図り、未来に向けたモノづくりを更に強化し、様々なステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを深めながら、環境と調和した持続的な社会の発展に貢献していきます。



CSR中期目標

活動組織名	CSR中期目標(2020～2022年度)
危機管理委員会	● 当社グループにおける危機管理体制の構築 ● 当社グループにおけるリスクマネジメント体制の構築
コンプライアンス委員会	● コンプライアンスを徹底する意識の向上 ● 企業行動憲章、役職員行動基準の周知 ● 各種ガイドライン、マニュアルの整備・拡充 ● コンプライアンス違反の適時・適切な報告の徹底
環境安全管理委員会	● 環境パフォーマンス(CO₂、水、廃棄物、化学物質)の継続的な改善の推進 ※ ESG投資動向、SDGs要求事項等を踏まえ、環境パフォーマンスの結果および活動内容の公表方法を改善(対応)する ● 現場力の向上を推進 ● 無事故・無災害達成に向けた取り組みの強化 ● 生物多様性保全活動の推進

2025

2030

CSR 2025年のあるべき姿

古河機械金属グループにおいて、危機管理体制のみならず、リスクマネジメント体制の構築、整備も実現する

すべての役職員が、国際社会に通用する高いコンプライアンス意識を備え持つ

環境・安全活動を推進する

(環境負荷低減、環境・安全の確保、生物多様性保全の推進、環境・安全活動成果の公表、休廃止鉱山における無事故・無災害の継続)

FURUKAWA製品のブランド力向上とカテゴリトップを目指す

人材基盤を拡充・強化する

従業員一人ひとりが能力を最大限に発揮して新たな価値を創造することができ得る働きやすい環境を整備することによる働きがいのある会社を実現する

顧客に信頼される製品を持続的に生産、販売するためにCSR調達を基盤としたQCD※を追求する

持続可能な社会の発展

[SDGs: 持続可能な開発目標]

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



世界共通の課題解決への貢献

2015年9月に国連総会でSustainable Development Goals (SDGs: 持続可能な開発目標) が採択され、人間、地球および繁栄のための行動計画が示されました。SDGsは、2030年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題や世界のあるべき姿を明らかにし、17の目標と169のターゲットを軸に、地球規模の取り組みを推進しようとするものです。

当社グループは、事業活動や企業の社会的責任を果たすための取り組みを通じて、国際社会が協調して定めたSDGsへの貢献を目指しています。

活動組織名	CSR 中期目標(2020～2022年度)
品質保証委員会	- 品質向上 (1) 製品クレームの削減・ゼロへの挑戦 ①変化点・変更点管理の強化 ②開発設計段階における品質向上への取り組み ③繰り返しクレームの撲滅 (2) 品質保証への意識向上 ①教育の充実化によるスキルの底上げ ②部門間情報共有システムの改善 ③海外調達・海外工場における品質保証マネジメントの強化 - 安全性向上 (1) 製品の安全性評価システムの見直し・改善
人事総務部	- 人材育成 - 健康経営の推進 - ダイバーシティの推進 - 就労環境の整備
資材部	- CSR 調達体制の構築 - サプライヤマネジメント(QCD + CSR)システムの強化 - CSR 活動の社内強化

※ QCD: Quality (品質)、Cost (コスト)、Delivery (納期)。